
お見舞い

市丸乱菊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お見舞い

【Nコード】

N8031H

【作者名】

市丸乱菊

【あらすじ】

雛森に手を出してしまった事を、ずっと悩んでいた吉良が彼女にあやまりに行きます。そこでは・・・

五番隊副隊長雛森は、執務室で仕事をしていた。

自分が寝たきりのときに、自分の仕事を幼馴染の十番隊隊長日番谷がやっていてくれたのだから、

自分もちゃんとやらないと・・・。

という意気込みでデスクに向かっていた。

隊長の机は空いたまま・・・・・・・・・・

なるべくあまり見ないようにはしていたが、空席を見るといつも思
い出す。

そのたびに涙ぐんでいた。

「雛森副隊長。お客様です」

そう言って通されたのは、三番隊副隊長吉良。

「雛森くん・・・・・・・・・・。」

「吉良くん？どうしたの？」

うつむき加減の吉良に雛森が優しく問いかける。

「ずっと思ってたんだ・・・・・・・・。」

ようやく吉良が口を開く。

「うん？」

「あのとき、僕は君に剣を・・・・・・・・。」

責任感からか吉良が震えて雛森に頭を下げる。

「本当に・・・・・・・・ごめん・・・・・・・・。」

「あの時、斬りかかったのは私だもの。」

吉良君は当たり前のことをしたんだよ。

私のほうこそごめんね・・・・・・・・。」

頭を下げる吉良の肩にやさしく手を置いた。

「今日はどうしてもそれだけ言いたくて・・・。」

君の体調がよくなるのを待ってたんだ。

顔色も大分良くなったね。」

安心したのか、雛森の顔を見て少し笑った。

「ありがとう・・・・。吉良君。」

にこっ本心から笑えたその笑顔は、吉良にとっては天使のようだった。

「あっ・・・あのっ!! 雛森君っ・・・!」

「どうしたの?」

「実は僕、きつ君が・・・」

「え?」

吉良の中では何かが爆発しそうだった。

「なーにやってんだ・・・お前ら。」

突然現れたのは十番隊隊長日番谷。

「へっ?」

吉良の拍子が抜けた。

「しろちゃ・・・あ・・・日番谷君・・・」

瞬歩で近づかないでっいつも言ってるでしょっ!」?

「やっと仕事できる様になったんだな。」

まあ一安心ってどこか……………」

「日番谷君が仕事やってくれてたお陰でゆっくり休めたし、助かったよ。」

ありがとう。」

本心からのお礼の言葉だった。

「五番隊の仕事を日番谷隊長が……………」

ふと3番隊隊舎前の出来事を思い出す。

「雛森に血ィ流させたら

てめえを殺す!!!!」

そうか、隊長も雛森君を……………」

「まあ……………」

あんまり無理すんなよ。

寝シヨンベン桃・・・・・・・・」

くるっと体を翻し、顔だけ振り向きニヤッと笑みを浮かべた。

そして右手をさっと上げて去っていった。

「ひっひっ日番谷君っ！！！」

「寝シヨンベン・・・・・・・・」

吉良は開いた口が塞がらなかった。

「ちっちがうのよ・・・！！吉良君っ！！！」

慌てて手を振って違うということを強調したいのだろう。

その姿がまた可愛かった。

「今日は元気な顔が見れてよかったよ。また来るから・・・」

優しく雛森を見つめ、微笑んだ。

吉良が心から安心した笑顔だった。

「うん。ありがとう吉良くん。またねー♪」

雛森は元気に手を振って見送った

帰り道。

「吉良のやつ……」

言わせるかよ……絶対に……」

帰り道、日番谷がボソっとつぶやいていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8031h/>

お見舞い

2010年10月11日19時12分発行